



第23回日本緩和医療学会学術大会

3-1 病棟 荒谷 智子

6月15日(金)～17日(日)までの3日間、神戸で行われた「第23回 日本緩和医療学会学術大会」に参加してきました。神戸ポートピアホテル、国際会議場、国際展示場の3か所を使用して行われ、会場も広く、参加者も約7,500人とかなり多かったです。

学術大会のテーマは「Quality Palliative and End Of Life Care」～緩和医療とEOLケアの質を見直す～でした。がんだけではなく、非がんの緩和ケア(心不全や認知症、神経疾患などの緩和ケア)、小児緩和ケア、海外でのACP(アドバンスケアプランニング)の考え方、チーム医療の在り方などのセッションがありました。症状緩和における薬物治療以外にも、日常のケアや多職種によるアプローチなど、最新の知識やエビデンスを聞き、大変勉強になりました。

私は、齋藤医師と共に「言語的コミュニケーションができない利用者に対する症状緩和や倫理的課題への取り組み」～東京都立府中療育センター緩和ケアチームの活動報告 第1報・第2報～という2演題を発表してきました。第1報では、緩和ケアチームの立ち上げから現在までの活動内容、第2報では実際の事例を紹介し、取り組んだ内容を発表しました。私たちの演題発表の分野は「特定集団の緩和ケア」です。病院や在宅だけでなく、施設における緩和ケアの考え方、対象をがんに限定することなく、非がん患者も対象とし、施設の重症心身障害児(者)すべてに緩和ケアが必要となることをアピールしてきました。

全国の重症心身障害児(者)施設で緩和ケアチームがあるのは当施設だけです。少しでも皆さんに活動を知っていただけるように発表してきました。

夜は、神戸の美味しい夕食を堪能し、とても有意義な学会参加をさせていただきました。



プール開き

指導科 岡地 博美

7月11日（水）プール開きを行いました。プール開きにふさわしい晴天の中、「安全に楽しんでください」との大島院長のあいさつから始まりました。指導科職員によるフラダンスはアロハシャツ、ムームー、腰みの姿でハワイアンムード満載！華麗なダンスを披露しました。参加されていた利用者の方もびっくり仰天の表情で楽しまれました。

ダンスの後は「島の宝」「世界に一つだけの花」「タフワ・フワイ」「アロハオエ」をピアノやリコーダー、ウクレレの演奏に合わせてみんなで合唱。プールの周りにはさながら常夏のハワイのようでした。後半に来られた通所の方のためにフラダンスをもう一度披露しました。病棟によっては参加者が少ないところもありましたが、テラスから手を振って見ていただいた病棟もあり、にぎやかに行うことが出来ました。参加された皆さん、ありがとうございました。



自衛消防訓練審査会に参加しました！

事務室 伊豆田 拓也

6月27日（水）府中市民陸上競技場にて、自衛消防訓練審査会が開催されました。この審査会は、事業所の防火管理体制の充実、防火意識と活動技術の向上を目的に行われており、当センターからは、男子隊と女子隊の2隊が出場しました。

今年度は、昨年までと競技内容が大きく異なり、競技開始まで、火災場所や隊員の役割がわからない等、各自の臨機応変な対応と隊員同士の頻繁なコミュニケーションが重要となる、より実践的な内容に変わりました。

私は、昨年につき2回目の出場となりましたが、変更点に慣れず、ゼロからのスタートとして挑むような気持ちでした。訓練では、あじさい館横のグラウンドで、初期消火や避難誘導、屋内消火栓の操作等について練習を重ねると共に、台詞を隊員間で確認したり、発声の確認等もしました。訓練を重ねるにつれて、隊としてのまとまりができてきたように思います。

当日は、各事業所の隊が互いの訓練成果を競い合いました。

どの隊も素晴らしく、周りを圧倒するような迫力のある実技を行う隊も多々ありました。私たちもそれらに負けないように演技を行い、これまでの練習の成果を発揮してきました。その結果、男子隊、女子隊ともに3位入賞を果たしました。

この成果は、このメンバーだからこそ達成できたことだと思うので、1カ月半共に取り組んできた五人の仲間と、暑い中、根気強く御指導いただいた山口さんに、心から感謝します。

そして、当日、応援に来て下さった幹部の皆様、送り出していただいた事務室の皆様、練習中、グラウンドで応援して頂いた職員、利用者の皆様にあらためて感謝申し上げます。



七夕コンサート

4-1病棟 山田 志津子

4-1病棟では、7月4日(水)に少し早い七夕コンサートを行いました。コンサートは、“コスモスベアーズ”による管楽器の演奏です。“コスモスベアーズ”の中に以前4-1病棟にいた看護師さんが在籍されているので、利用者さんやご家族の方々はとても楽しみにしていました。

まずは、7月の誕生日を迎える利用者さんへ『ハッピーバースデー』の生演奏でお祝いしました。その後、担当看護師からのメッセージを伝え一緒に写真撮影をしました。

そして、コンサートのはじまり・・・はじまり・・・です♪『しゃぼん玉』の演奏中にはしゃぼん玉や風船を飛ばし、音楽とともに視覚でもコンサートを楽しみました。『ドレミの歌』をハンドベルと一緒に演奏したり、『山の音楽家たち』では様々なパフォーマンスに驚いたり、笑顔を見せたりと利用者さん達は楽しんでいました。ご家族からは、「また来てもらいたいですね」とさっそく来年の開催を期待する言葉を頂きました。来年は、季節をかえてコンサートを企画していきます！



「救急対応訓練」を実施しました

指導科長 笠井 剛

6月7日(木)に通所にて、「救急対応訓練」を実施しました。

現在、通所を利用している多くの利用者は、通所送迎バスを利用していますが、送迎中の体調急変への対応をはじめ、通所時の安全確保は大きな課題となっています。

例年通所部門のみで訓練を行っていましたが、今年度は医療安全対策室とも連携し、他部門の職員が参加する形で実施しました。当日は、医師から心肺蘇生法についての講義・実技演習を受けた後、ロールプレイング形式で、実際に起こり得る利用者の呼吸状態悪化や心肺停止、また、交通事故など複数の場面を想定して行いました。訓練では、バス添乗職員の対応のみならず、運転手も交えての緊急通報、バスとセンター間で電話連絡しながらの指示出し/指示受け、家族・関係部署への連絡・報告等、様々な事項が盛り込みました。同訓練は十数年間継続して実施していますが、具体的な場面を各種想定することで、また新たな課題も見つかってきています。

引き続き通所職員、医療安全対策室をはじめ、他部門の職員が連携することにより、医療安全に努めるとともに、今後とも在宅重症心身障害児(者)が、地域の中で安心して生活していけるよう、通所事業の充実に努めていきたいと思えます。



「武蔵台文化センター夏まつり」に参加しました

指導科長 笠井 剛



7月14日(土)、「武蔵台文化センター夏まつり」に参加しました。

当センターでは、地域行事への参加を通じて、利用者の皆さんに普段とは違う体験をしてもらうとともに、毎年「綿あめ」の出店をしています。当日は、近隣の自治会や団体をはじめ、盆踊りの櫓を囲む形で多くの露店が軒を並べました。

今年は例年になく猛暑で、日中こそ暑さで、例年より来店する方は少なかったものの、夕方からは親子連れや子どもを中心に、地域の方々の長い列ができていました。4色の綿あめの中から好きな色を選んでもらったり、出来上がりを待つ

ている間に当センターの案内をお渡ししてお話をしたり、楽しい雰囲気の中で地域の方と交流することができました。案内を熱心に見てくださる方も多く、中には「今年も府中療育センター祭を楽しみにしています」と声を掛けてくださる方もいて、改めて一人でも多くの方に当センターのことを知ってほしいと感じました。

当センターでは、今後とも地域との繋がりを大切にしながら、多くの地域住民の皆さんに理解を深めてもらえるように努めていきたいと思っております。



第22回日本医療保育学会総会・学術集会

看護科 吉山 のり子



平成30年6月23日(土)・24日(日)、東京で行われた「第22回日本医療保育学会総会・学術集会」に保育士8名が参加しました。今年のテーマは「チーム医療保育の実現に向けて」でした。当センターから山田保育士が、「緊張のある重症心身障害者へのタッチケアの効果」を示説発表し、緊張のある利用者の手足をやさしくマッサージすることで緊張が軽減した事例を紹介しました。発表後は、手技や細かい注意点などの質問が相次いで寄せられ、利用者の活動に活かせる興味深い事例であると好評でした。参加したメンバーは、運営スタッフとして学会の受付や口頭発表、ワークショップの司会やタイムキーパーなどに携わり、全国の保

育士と交流することで知見を広げることができました。また、他施設の口頭発表を聞いたり、パネルシアターなど様々な専門分野のワークショップに参加しました。医療を伴う施設で働く保育士にとって、今回の学会は、利用者の豊かな生活を支えるためのスキルや多職種と連携を図り協働することの大切さを改めて学ぶ機会となりました。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>